

## バングラデシュで30円カット (異文化言い分EVEN)

著者	安藤 裕二
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	196
ページ	49-50
発行年	2012-01
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004083">http://hdl.handle.net/2344/00004083</a>

## バングラデシュで 30円カット

安藤裕二

野田首相の就任直後、一〇〇〇円カットで散髪をしていることが話題になった。日本において一〇〇〇円で散髪できることは非常に格安感がある。かく言う私も何度か一〇〇〇円カットにチャレンジしたことがあるが、「一〇〇分で散髪する」というだけあつて、どう注文をしても画一的な「キノコヘア」になってしまったという苦い思い出がある。

そんな私は現在バングラデシュのダカで暮らしている。どこの国に滞在していても、日本人駐在員にとつての悩みの一つは「どこで髪の毛を切るか」ということであろう。着任直後、ある日本人駐在員の方から清潔で近代的なヘアサロンを紹介してもらった。そのヘアサロンは日本の美容院と変わらない内装で、冷房はもちろんのこと、音楽も流れ、髪の毛を洗う際のシャンプーまで選ぶことができる。実際に髪を切る際には自分の要望を伝えるのに苦労はするものの、そこまで酷い髪型にはならない。初めて挑戦したそのヘアサロンでは、若干「キノコヘア」になったものの、シャンプー・散髪・ブローまでやってもらい、二五〇TK（約二五〇円）と破格であった。

翌日、ベンガル人の同僚に自慢するかのよう  
に「昨日二五〇TKで散髪したんやで」と伝えると、  
彼から返ってきた反応は予想外のものではあ  
った。「散髪に二五〇TKも使ってるんか!?」と信じら  
れないと言わんばかりに驚かれたのである。予想  
外の反応に若干戸惑った私は、少し間を置いて聞  
き返した。

「いつもいくらで散髪してるん?」。それに対し  
て同僚からは「五〇TK(約五〇円)」。それだけ  
高くても一〇〇TK(約一〇〇円)やで」という  
答えが返ってきた。答えを聞いた瞬間、「あんま  
り変わらへんやん」と思った当時の私は、まだバ  
ングラデシユの物価や価値観を理解していなかつ  
た。他の同僚にも同じことを伝えようと、ほぼ同じ  
反応が返ってきた。そして、私からの同じ質問に  
対しても、五〇TK〜一〇〇TKで散髪をしてい  
ると答えた。それから数日間、同僚の間では「散  
髪に二五〇TKも使う」と何かにつけてネタにさ  
れた。そのことがあまりにも悔しかったので、同  
僚達に「次は五〇TKで切るから」と宣言し、髪  
の毛が伸びる間、どこで切ろうかと道端の至る所  
にある散髪屋に目をやった。ダカの街には、お店  
のようにになっている散髪屋や沿道でイスと机と鏡  
だけを置いている「青空散髪屋」などたくさん  
の散髪屋がある。私が住む地域は外国人が居住しな  
い中間層が中心の地域である。自宅から幹線道路  
に通じる一〇〇m程の通りにも三軒の散髪屋があ  
る。そのうちの二軒で散髪の値段を聞いてみると、  
三〇TK(約三〇円)だと言う。決めた、ここだ。  
一カ月後、髪を切るのによい頃合いになつ  
た。散髪をする当日、同僚達に「今日散髪して来  
るから」と告げ、自宅近くの散髪屋へ向かった。  
散髪屋に入るなり、見慣れない外国人が来たとい  
うことで、数人の野次馬たちが散髪屋の前に集  
まってきた。しかし、この散髪を失敗することが  
できない私は、そんなことには目もくれず、散髪

屋のおっちゃんにカタコトのベンガル語で「二cm  
切ってくれ」と指示をした。ベンガル方式で「Y  
ES」を意味する、首を横に傾げる仕草をしたおっ  
ちゃんは、薄汚いバスタオルを私の首に巻き、そ  
の上から切った髪の毛を落とすためのシートを被  
せた。前回切ったヘアサロンのように、シャンプー  
台もなければ、冷房もない。緊張と暑さで私は汗  
を流しながらも、おっちゃんは洗面器に入れた水  
を手ですくい、私の頭を濡らし始めた。まんべん  
なく頭を濡らした後、慣れた手つきでチョコキョ  
キと髪の毛を切っていく。頭の左右・後ろ・上・  
前髪と私の緊張を見て、微笑みながらも手際よく  
こなしていく。二〇分程度で全てを切り終えた。  
一番心配していた襟足ともみ上げもナチュラルな  
仕上がりがだった。頭の後ろの髪の毛に少し段差が  
あって不自然なものの、ぱっと見た感じは悪くな  
かった。これで三〇TKは明らかに格安だ。これ  
で同僚達に大きな顔ができる。翌日オフィスへ行  
き、今度こそその気持ちで同僚達に告げた。「昨  
日三〇TKで散髪してきたで」。それに対し、「めつ  
ちやええやん。散髪に二五〇TKなんて必要ない  
やろ」と同僚達も嬉しそうに答えてくれた。

ヘアサロンを紹介してくれた日本人駐在員の方  
にも同じことを告げると、「三〇TKで切ったの!?  
そんなに安いんだ。そういえば、どことなくうち  
のドライバーと髪型が似てるね。ははは、ベンガ  
ル人だわ」と今度は日本人にネタにされてしまつ  
たのである。ベンガル人と日本人の両方を満足さ  
せるのはなかなか難しいなと思いつながらも、少し  
現地化できたことに喜びを感じた。

後で聞いた話によると、ダカに住む日本人は、  
高級ホテル内のヘアサロンで散髪する方や日本出  
張の際に日本で散髪すると言う方が多かった。高  
級ホテル内のヘアサロンは一〇〇〇TKだそう  
だ。日本では一〇〇〇円カットの安さに驚かれる  
が、ベンガル人に散髪に一〇〇〇TK使っている

とえば、度肝を抜いて驚かれることだろう。さ  
て、今度はどこで髪を切ろうか。そう考えるのも  
海外に暮らす楽しみの一つである。



30TKで散髪中の筆者。

あんどろ ゆうじ/在/バングラデシュ海外研修生

2008年~2011年研究企画部研究人材課勤務。

2011年8月より一年間の海外研修生として、バングラデシュ・ダカへ派遣。